

# 和し 錛え 学ぶ

## 「大切なものの」

先月の話になりますが、9月下旬に1年生が合唱フェスティバルを行いました。この3年間、本校ではコロナのため、合唱コンクールが中止になっていました。市内では、昨年度からマスクをはめて復活させたところや、逆に合唱コンクールをなくしたところなど様々です。本校は、今年は4年ぶりということで、時期を学年ごとに決め、音楽の授業で習った曲（どこのクラスも同じ曲）を2週間程度だけ各教室で練習し、学年の中で披露するという形にしました。

9月下旬、1年生が合唱への取組を始めました。コロナが5類になったとはいえ、まだ校内でマスクをはめている生徒も多いです。加えて、1年生は、小学校3年生の2月に「全国一斉休校」を経験した学年で、歌うことから遠ざかっていた時間も長かったと思います。「本当にできるのだろうか。歌えるのだろうか」という心配を抱えながらの練習スタートでした。

案の定、始めはどのクラスも苦労しているようでした。先輩たちも経験していない4年ぶりの合唱コンクール。手探りでの練習開始。また、担任として初めて合唱コンクールに臨む先生もいて、生徒も先生たちも、みんなが手探りだったと思います。

教室での練習が始まって数日経つ頃、校長室まで歌声が届いてくるようになりました。その時はすごく嬉しかったです。ソワソワしながら仕事の手を止めて、ついつい、歌声が聞こえるほうに足が向いてしまう日々が続きました。もちろん、初めからきれいにハモれていたわけではないですし、リーダーの呼びかけにも反応が薄く「苦労しているな」と感じる場面に出会うこともありました。しかし、担任の先生も、生徒とともに歌ったり、歌詞の意味をクラスで考えたりと、音楽が専門ではなくても、それぞれの先生が工夫して生徒に寄り添い、徐々に学級の歌声がまとまっていくを感じました。



当日はどの学級の歌声もとても良かったです。だんだん成長していく指揮者、パートリーダー、それに応える生徒たち。歌を支える伴奏者。生徒と歌い、良い合唱ができたときには満面の笑みで生徒と喜びを分かち合う担任の先生たち、それを廊下でそっと見守る学年主任。

生徒同士が関わってこそその学校、心が響きあってこそその学校だと、合唱に取り組む生徒の姿を見て改めてそう思いました。体育祭も生徒の輝く姿がきっとたくさん見られることでしょう。お時間がありましたら、10月27日（金）の体育祭にぜひお越しください。